

1 本年度の重点目標

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、生徒に生きる力を育む。
- (2) 豊かな心を育成する生徒指導を推進し、基本的な生活習慣の確立を図ると共に、人権を尊重する社会性を育む。
- (3) 個々の生徒に寄り添った生徒支援体制の充実を図る。
- (4) 生徒が主体的に考えることができる進路指導を推進し、進路意識の向上を図ると共に、進路実現に努める。
- (5) 普通科単位数制高校として特色ある学校教育を推進し、地域・生徒・保護者の求める教育の実現に努める。
- (6) 生徒が自主的な活動を行うための時間を保障する。

2 本年度の経営方針

- (1) 学校関係者評価、自己評価、保護者や生徒の意見を踏まえ、学校運営の積極的な改善を図る。
- (2) 職員間の緊密なコミュニケーション・情報共有を図り、職員が協働体制で学校運営に取り組み、仕事の効率化を図る。
- (3) 生徒・保護者からの相談体制を充実し、学校と家庭が一体となった生徒支援に努める。
- (4) P T A 活動の活性化、ホームページ・学校説明会の充実、公開授業週間の活性化を図り、さらに開かれた学校づくりを推進する
- (5) 危機管理意識を高め、職員間の情報共有と連携を図る。また、安心・安全な学校環境整備を通じて防災・防犯に努めると共に、生徒や教職員の健康管理に努める。(部活動休業日等)
- (6) 服務規律を遵守し、市民から信頼される学校づくりに努める。
- (7) 仕事量の均衡を図り、積極的に働き方改革を行う。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
信頼される学校づくり	年間授業計画(シラバス)に基づき授業や教科・科目の学習指導が行われている。	B	シラバスの活用については、これまでも生徒からは十分ではないことが読み取れる回答が多く示されており、今年度も若干の改善の兆しはみられるものの同様の結果となっている。この結果は、肯定的に捉えている割合の高い教職員の意識と異なっていることから、今後、個々のニーズに合わせた科目選択を重視する単位制においても、さらに重要度が増すことを意識すべきである。引き続き、シラバスをより一層有効に活用しながら効果的に学習指導を進める方法について教職員で共有を図る。	A	B
	生徒の生活(服装、交通など)のルールやマナーの指導は学校全体として適切に行われている。	A	本校の指導の状況について、多くの生徒および保護者から概ね適切であるとの回答を得ているものと思われる。しかしながら、教職員からは、不十分であることを指摘する回答が一定程度あることから、これまでの指導状況が適切なものかどうかについて、再度検討することを進めていきたい。	A	A
	いじめをなくすための調査や指導、先生方による悩み相談やスクールカウンセラーによるカウンセリングが適切に行われている。	A	生徒および保護者ともにカウンセラーへの相談体制などについての説明がしっかりなされている状況が伺えるが、実際に困ったときに相談できることが重要であり、状況に合わせたカウンセリングの設定が必要とされる。このことについて、生徒のみならず、保護者ともしっかりと連携をさらに強化し、引き続き、学校側の支援体制について折に触れ発信していく必要がある。	A	B
	生徒・保護者の意見を聞く機会が十分設定されている。	B	生徒の回答では、これまでと同様の肯定的回答を得ることができているが、保護者からの回答では、コロナ禍により保護者への直接的な対応が制限されたことにより肯定的な回答が昨年よりも減少している状況が窺える。教職員の回答も同様に、保護者との面談や活動への参加機会が減少したことが回答に影響していると考えられる。今後については、状況が変化しても保護者との連携などが確立できる体制を整えたい。	A	B
	ホームページは適宜更新され、内容も充実している。	B	生徒に対しての情報発信をHPからGoogleClassroomへほぼ完全移行したことに伴い、HPアクセスは減少している。一方で保護者や中学生、外部への情報発信のため、必要な部分については各担当から引き続きHPの更新を行う必要がある。また、結果を見るに、2・3年生は昨年度も含めてホームページを見たことがあるかを答えている生徒も多いと思われる。「今年度見たか」と限定して問うべきであった。加えて、今後は「見たことがあるか」よりも、保護者や教職員への質問と同様に、内容について問うべきではないか。一方で、部活動の情報提供に対する要望が保護者・教職員ともに強いことから、情報の整理や更新の頻度などの検討が必要である。	A	B
学校関係者評価委員による意見	・「いじめ」について見聞きした生徒が10%程度いて、これまでの数年と変わらず完全には解決されていない。いじめはゼロになるまで徹底的に取り組みなければならない。家庭と学校が連携をこれまで以上に強化して、いじめの発見、原因の解決、改善への指導にあたることを期待する。 ・ホームページは静的な情報掲示に終わらず、地域・学校・生徒・教員・家庭が情報を共有し、LMSやSNSなどとともに交流の場として位置づけることで、効果的な学習と情報の安全教育にも生かすことが求められる。				
魅力・特色ある学校づくり	生徒に対してわかる授業、理解を深める授業を行い、学力の向上を図っている。	A	生徒・教職員共に”わかる授業”に対する意識が、昨年度よりも多少高まっている。特に1年次の生徒からは肯定的回答が多数を占めた。単位制初年度の年次で、英語科における少人数授業等の授業形式の改善やICT機器の活用、カリキュラムの改定などが功を奏している可能性が考えられる。今後学年制の授業も含め、どの生徒も取り残さないような”わかる授業”が一層求められると考えられる。	A	A
	選択科目は生徒の興味・関心・適性・進路などに十分に対応している。	A	科目選択については生徒・保護者ともに肯定的回答が8割を越えているが、生徒が実感している部分と、保護者の意識には大きな開きがある。ただし、保護者の回答からは、単位制教育課程の1年次保護者において、比較的肯定的であり、単位制による自由度の高い講座選択が評価されているようである。単位制がスタートしたことにより、教育課程の適切な設定に向け、生徒や保護者の声を聴きつつ、より良い講座選択の指導や提示が必要不可欠であると考えられる。	A	A

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
魅力・特色ある学校づくり	講習や模試に生徒が積極的に取り組み、学力向上につながるように体制が確立されている。	A	全体的には、昨年度の結果から大きな変化がないが、1年次の状況では、講習・模試の取組が日常の学習や進路希望に十分生かされていることに対し、肯定的に捉えている生徒の割合が高い様子が伺える。これは、生徒に対し、模試の振り返りを丁寧呼びかけ、学習状況の分析結果を集会等でフィードバックを行った取組の成果であると考えられる。成果の上があった取組を、全校で共有していきたい。学年が上がるにつれて講習、模試は自分の進路希望に生かされているので、早い段階から自分の進路希望に繋げていくためには、担任の面談等以外に学年全体で取り組む必要がある。	A	A
	進学等のガイダンスや説明会が適宜実施され、適切な進路情報が生徒・保護者・教職員全体に提供されている。	A	本校における進路情報の提供状況については、生徒・保護者ともに概ね十分であると捉えていただいていると考えられる。コロナ禍により、対面での進路別集いが難しい状況を強いられたことから、代替として行ったオンラインでの進路別集会や保護者向け講演会、google classroomを用いた進路情報発信が有効であったものと考えられる。生徒・保護者への情報提供を、より効果的に行う方法を更に模索していきたい。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で。保護者に対する説明会が全く出来ない状況であった。次年度は何とか感染対策を万全にして実施する方向で考えたい。	A	A
	生徒が、生徒会行事やホームルーム活動に積極的に参加できるように指導が行われている。	A	コロナ禍での生活が2年目を迎え、様々な活動が制限される中においても、大半の生徒から前向きな評価を得ている。教職員も昨年の経験を生かしながら工夫した取組を進めているところではあるが、本来であれば、縦のつながりを充実させる委員会活動などが、通常の形では積極的に踏み出せない状況をどう進めていくかが今後の課題である。	A	A
	部活動の指導が活発に行われている。	A	部活動の活動状況については、大半の生徒、教職員から積極的に行われているとの認識が得られている。コロナ対策をしっかりと講じた活動を心掛け、できるだけ部局活動が活発に行えるよう支援していきたい。	A	A
	総合的な「探究」の時間の活動を通して、視野が広がり学ぶ意欲が高まった。	A	総合的な探究の時間については、生徒・保護者ともに全学年で肯定的に捉えている割合が増えており、本校の重視する探究学習の意義が確実に浸透していると判断できる。生徒の視野の広がりや意欲の高まりの認識も大幅に向上しており、保護者においても同様の結果が窺える。しかしながら、探究学習についての成果に実感の得られていない保護者も一定程度となっていることから、引き続き探究学習の意義がより伝わる働きかけを進めていく必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動（探求の時間）について地域や保護者の理解と協力を得て、また地域市民の生涯学習の機会となり、地域活性化に繋げるために、ICTをも活用するなどにより日常的な情報共有と交流が求められる。 ・コロナ禍における部活動の制限を受けているが、感染症対策を徹底しながら、生徒に活動機会を与えるよう工夫していただきたい。 ・生徒が自分自身で行動する力や方法を身に付けていると感じています。引き続き生徒の能力を引き出す指導をお願いしたい。 				
学校力の向上	来訪者や不審者に対するセキュリティチェックは十分に行われている。	A	玄関のスクールロックやオートロックの適切な運用により、概ね適切な対応が行われている回答が得られている。玄関以外の出入口についても日常の施錠等を心がけられており、玄関での来校者対応など、事務職員による丁寧な対応に感謝している。 ただし、放課後の生徒の出入りが多い時間帯等については、施錠が困難なため、これらの状況でも不審者の侵入などを防ぐ対応の方法等について検討を続けたい。	A	A
	生徒に対する特別支援体制が整備されており、必要な場面で組織的に対応している。	A	9割を超える肯定的な回答が得られているが、「ややあてはまる」の回答が大半を占めている。理由は様々に考えられるが、普段生徒に接している中で「特別支援体制が整備されている」「組織的に対応している」という実感があまり湧かない教員が多いのではないかと推察される。特別な支援を必要とする生徒の割合は低いが、担任や顧問など、その生徒と深く関わる教員がかならずいるので、負担が特定の教員に偏らないよう学校全体が組織的な対応を図る。	A	A
	教育活動において、説明責任・結果責任が伴うことを全教職員は理解している。	A	教育活動における説明責任については、全教職員が意識し、果たしているものと考えているが、その説明等が十分であるかどうかを学校全体で客観的に判断する場面においては、2割程度の教職員が十分に果たせていないと感じているものと考えられる。適切な対応を進められるような体制作りを進めたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の置かれた個別多様な状況について理解し、LGBTなどへの対応していくことが求められる。 ・引き続き、生徒、教職員安全安心のためのセキュリティチェックをお願いしたい。 				
総合力の向上	信頼される学校づくり」「魅力・特色ある学校づくり」のために、保護者や地域の方々に対し教育活動や学校生活の様子などがわかるように情報提供を積極的に行っている。	A	昨年の回答と比較では、若干の変動はあるものの概ね同様の肯定的回答が得られている。また、昨年の回答では、割合は高くないまでも、保護者から「よくわからない・見たことがない」という回答が複数寄せられていたが、今年度は、この回答は無かったことから、本校の特色や学校作りに関わる情報提供の取組が改善されているものと思われる。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの一方向の情報提供から地域や保護者、生徒までを含めた情報共有と情報交換、情報協働へと発展させることが学校への信頼を高め、学校や地域の魅力の相互理解を促進するために求められる。 ・生徒の約9割が入学後の高校生活、保護者においても同様の9割以上がにゅうがくさせたことに満足していることは学校の在り方が評価された結果だと思えます。 				